

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
映像音響 2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	横田 実			実務経験	有	職種	教員				
担当教員紹介											
アニメーションの音響効果に従事し、退社後は学校教員としてレコーディング、放送、コンサート、デジタル映像などの学科を経て現在に至る											
授業概要											
この科目は、おもに映像に関する基礎的知識を学ぶことで、就職の幅を広げることを目的とします。授業の中では極力機材に触れ、分解してその構造を実際 の目で確認することで体感的に覚え、それを講義によって補足することで確実に知識として定着させることを目指します。また、映像作品を通してその演出技法やテクニックを学ぶ授業も併せて行います。											
到達目標											
この授業はポストプロダクションの業務に必要な映像の基礎知識を学び、映像音響処理技術者認定試験合格レベルの知識習得を目標とします。この授業を学ぶことで、映像関連の就職も目指せるレベルの知識習得を目標とします。											
授業方法											
できうる限り実機を用いて見る・触れる授業をおこない、機械の構造や動作原理を視覚的・触覚的に理解していきます。映像やプリントでの資料を数多く使い、初心者にも分かりやすい授業を目指します。											
成績評価方法											
定期試験	70%	試験を総合的に評価する									
課題	15%	オンデマンド授業における課題によって評価する									
平常点	15%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
この授業は現物を見なが、或いは実験を行うことで知識を深めるため、勉強の範疇 においてのスマートフォンやタブレット端末の使用を可とする。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない場合、定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
参考資料のプリントを適宜配布します。											
回数	授業計画										
第1回	映像作品の見方 1：様々な映像作品を通して、作品の意図や制作テクニック、映像制作における考え方などを学ぶ										
第2回	電波の基礎とテレビの歴史：電波とは何か、テレビの歴史的背景、世界の放送方式										
第3回	フィルムカメラ：フィルムカメラの構造と特徴										
第4回	日本の放送方式：テレビの仕組み～走査線										
第5回	フィルムとテレビ：フィルムからHDTVまでの映像規格										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
映像音響 2	
第6回	アナログコンポジット信号:同期信号とカラーサブキャリア
第7回	デジタル信号:デジタルコンポーネント信号と伝送方式
第8回	映像信号の測定器:測定器の見方～波形モニター、ベクトルスコープ～
第9回	映像作品の見方 2:様々な映像作品を通して、作品の意図や制作テクニック、映像制作における考え方などを学ぶ
第10回	テレビカメラ:カメラの構造～レンズの特性、色温度、ホワイトバランス～
第11回	映像手法:カメラアングル、イマジナリーライン
第12回	タイムコード:SMPTEタイムコードの規格詳細
第13回	インピーダンス:インピーダンスと映像機器の接続方法
第14回	磁気記録:VTRの構造と映像編集(オンデマンド)
第15回	まとめ:全授業の復習